



ベニズワイガニ日本海系群 令和3年度資源評価結果

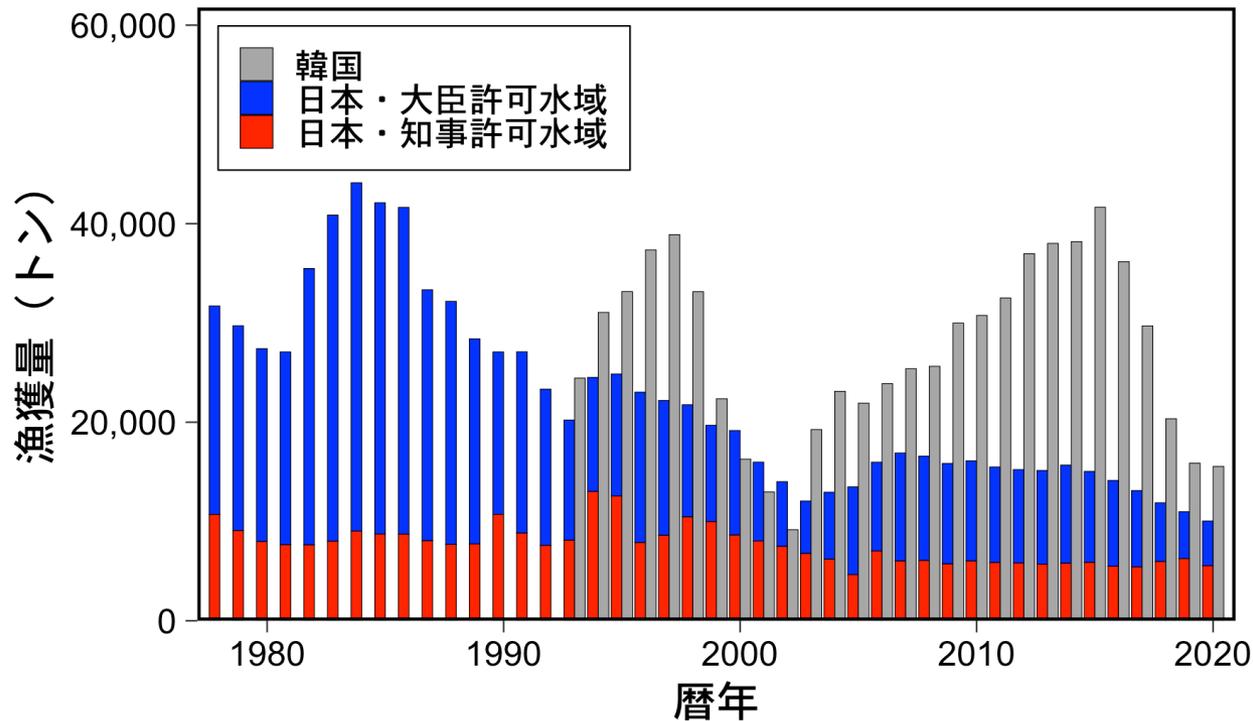
生物学的特性



生物学的特性

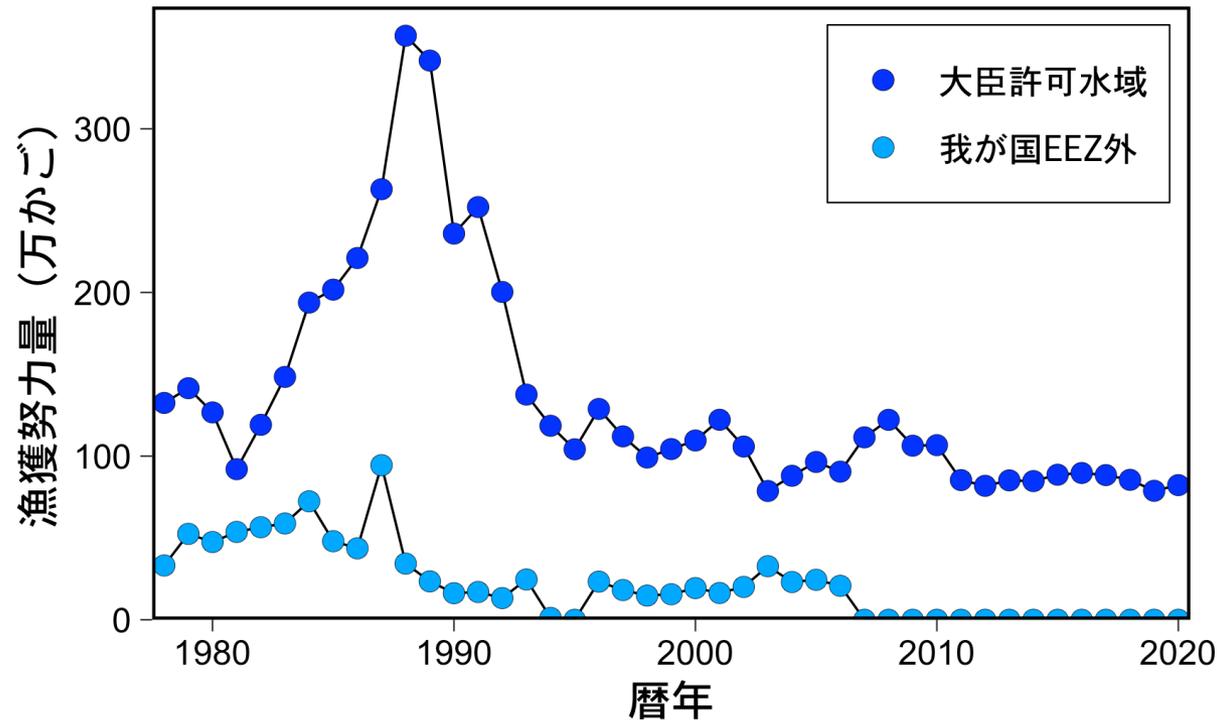
- 寿命: 10年以上
- 成熟開始年齢: 雌は10齡期または11齡期への脱皮が成熟脱皮(飼育実験下)、雄は不明
- 産卵期・産卵場: 主産卵期は2月～4月、隔年で産卵し抱卵期間は約2年
- 食性: イカ類の他、エビ類、カニ類(共食い含む)、ヨコエビ類などの甲殻類、微小貝類、小型魚類など
- 捕食者: アゴゲンゲ、ドブカスベ、ツチクジラなど

漁獲の動向①



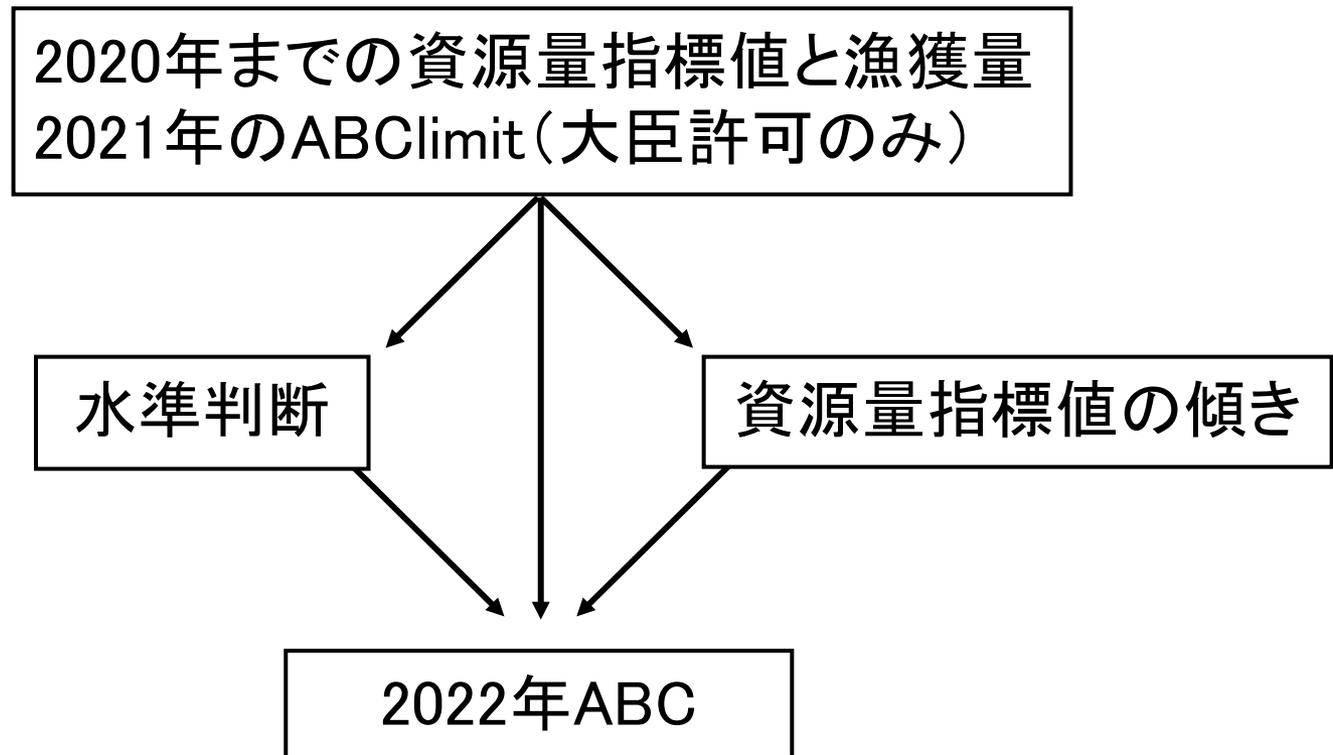
- 操業海域の異なる知事許可漁業と大臣許可漁業がある
- 大臣許可水域の漁獲量は2015年以降減少傾向
- 知事許可水域の漁獲量は2007年以降ほぼ横ばいで推移
- 2020年の日本漁獲量：10,052トン（2019年：10,984トン）
- 2020年の韓国漁獲量：15,549トン（2019年：15,875トン）

漁獲の動向②

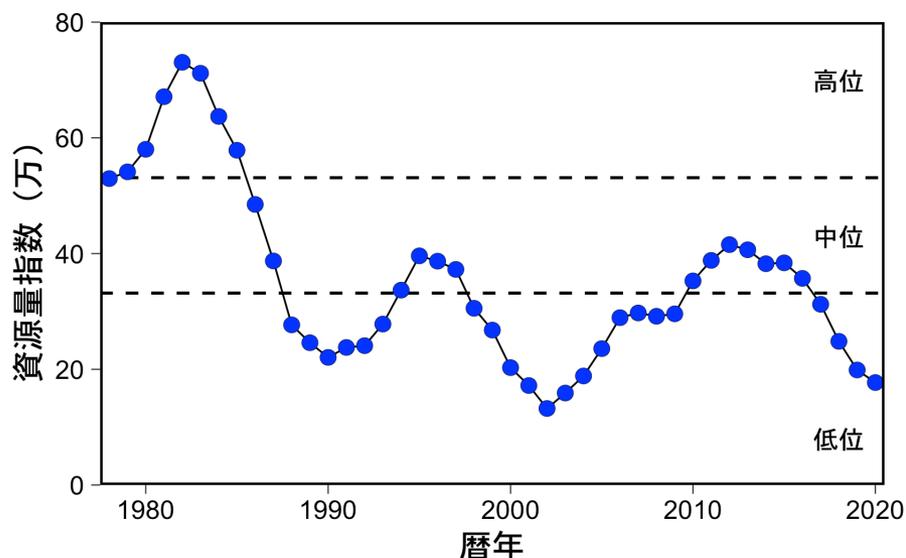


- 大臣許可水域の努力量は、1988年に350万かごを超えたのち、急激に減少
- 2007年に我が国EEZ外から漁場移動が起こり、大臣許可水域の努力量が一時的に増加した。2010年以降は80万かご前後で推移し、2020年は82.3万かご

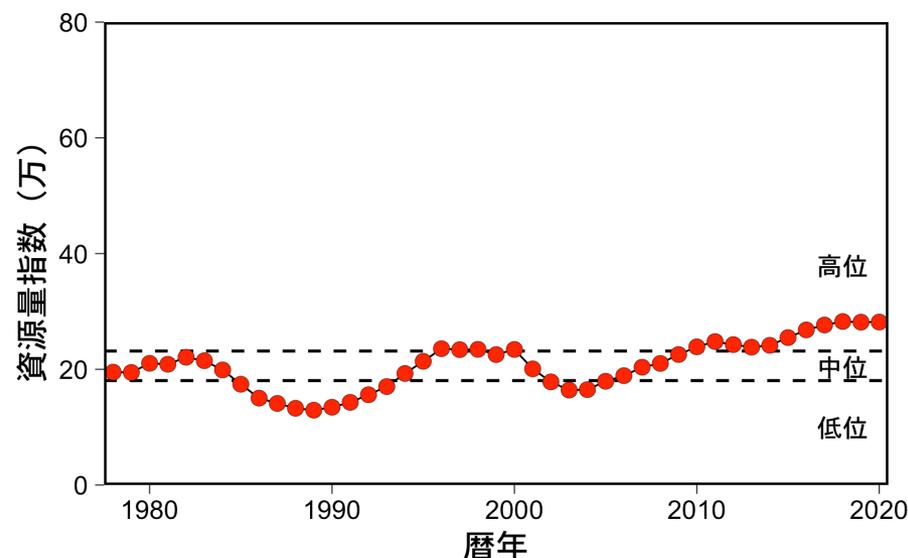
資源評価の流れ



資源の動向①



大臣許可水域における資源量指数

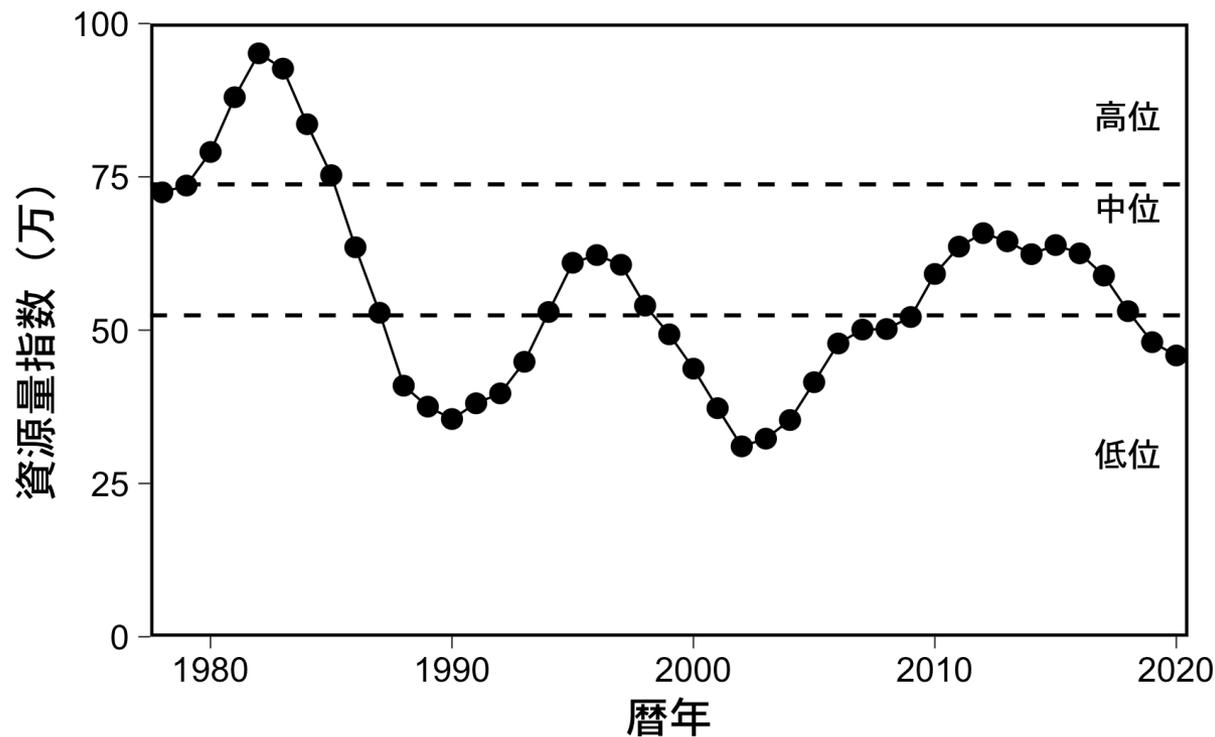


知事許可水域における資源量指数

※水準区分 低位／中位：53.1万（大臣許可水域）、23.2万（知事許可水域）
中位／高位：33.2万（大臣許可水域）、18.0万（知事許可水域）
（1978～2020年の資源量指数の最高値と最低値の間を三等分）

- 資源水準：大臣許可水域は17.7万で「低位」、知事許可水域は28.2万で「高位」
- 資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から大臣許可水域は「減少」、知事許可水域は「横ばい」

資源の動向②



本系群全体の資源量指数

※水準区分 低位／中位：52.4万、中位／高位：73.8万
(1978～2020年の資源量指数の最高値と最低値の間を三等分)

- 系群全体の資源水準：45.9万で「低位」
- 系群全体の資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- 系群全体の資源水準は低位、動向は減少
- 大臣許可水域は低位・減少、知事許可水域は高位・横ばい
- 各水域ごとの資源量指数に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値
0.8・大臣許可 ABClimit2021・ 0.83	Target	70	—	—
1.0・知事許可 Cave 3-yr・1.00	Limit	88	—	—

- ABC算定規則2-1)を適用した
- 0.8、1.0：資源水準によって決まる係数（標準値）
- ABClimit2021は2020年評価時の漁獲量4,300トン、Cave3-yrは2017年～2019年の平均漁獲量5,917トン
- 0.83、1.00：資源量指標値の動向から算定される係数